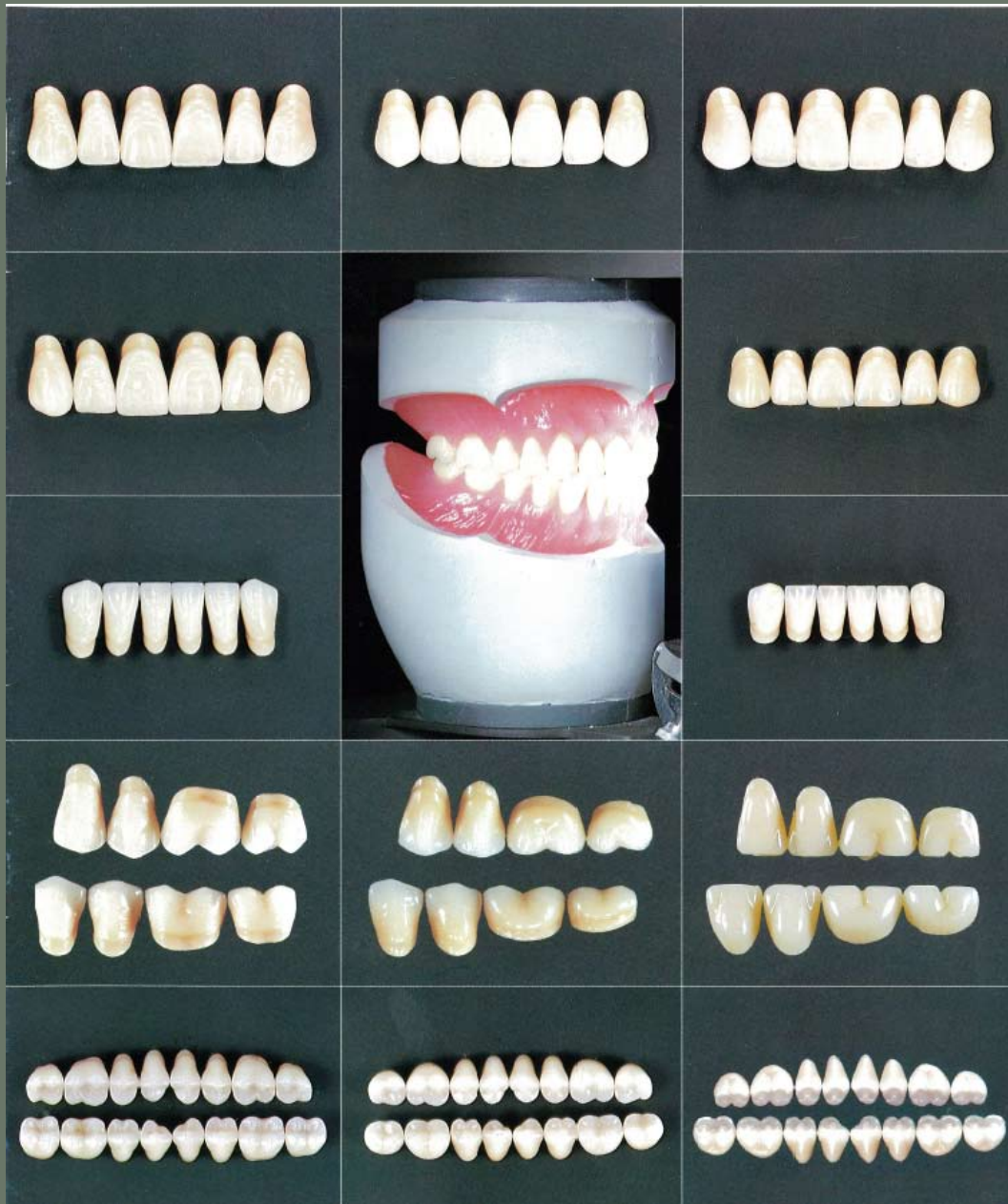


システムをめざす人工歯

リブデントシリーズ

前歯／臼歯 (FB-30、FB-20、フラット)



リブデントは 日本人のための人工歯シリーズです。

日本人の歯牙の形態的・色調的特長を見事に捉え、
美しさを"個性"をもって再現するリブデント前歯。
充分な機能回復という大目的にそって、
配列の容易性、安定の得やすさに特別な配慮を見せるリブデント臼歯。
GCのリブデントシリーズは、豊富な症例研究から導き出された
数々の工夫と充実したラインアップにより、
幅広いニーズに的確に対応し、
ご信頼を寄せられています。



日本人のための、選べる9形態 -

リブデント前歯 ポーセレン プラスチック

前歯が人の顔の印象や表情に与える影響は極めて大きなものがあります。

そこでリブデント前歯では DENTOGENIC な感覚を表現形態、面相、色調等に種々の配慮がなされ、個性を大切にした義歯製作を可能にしています。

豊富な形態の中から

患者さんに適した選択ができます。

リブデント前歯には標準的形態である T(尖形)、S(方形)、O(卵円形)の他に3種の間形態 TS(方尖形)、TO(尖卵円形)、SO(方卵円形)があり、さらに男性的特徴を備えた VT(尖形)、VTS(方尖形)も用意されています。これに咬合高径の低い症例のための SS(短方形)形態も加えると、ラインアップは、なんと全9形態。これらはいずれも辺縁隆線が強調され、中央隆線は比較的扁平な日本人の歯牙特有の面相をしています。

●各形態の中切歯



● VTS 形態を使用した男性的配列



● C 形態を使用した女性的配列



隣接面形状にも充分配慮がされており配列は個性的に行えます。

リブデント前歯では、特に頬舌的に十分な厚味を持たせているため、配列時に捻転を与えるなどの思い切った個性表現が可能です。また、歯頸部隆線のふくらみも天然歯同様に明確なため、歯肉部の形成が容易な他、老人特有の歯肉退縮を表現できます。

●頬舌的に十分な厚味を持たせた形状



口腔内での自然感を大切にされた微妙な色調表現も特長です。

色調は、幅広い適応範囲をカバーする6シェード。同一シェードの中でも中切歯、側切歯、犬歯にはそれぞれ微妙な色調変化を与えています。特に犬歯の色は少し濃目として、口腔内での自然感を可能な限り追求しました。もちろん切端部の透明感、歯頸部色の表現等にも、日本人の歯牙の特徴が良く表わされています。

●同一シェード内でも微妙な色調変化を



配列が容易なフルバランス設計 -

リブデント FB-30/FB-20 ポーセレン プラスチック

義歯が口腔内で十分に機能するためには、中心咬合位はもとより、機能運動時においても上下顎の咬合平衡が良好に保たれていることが必要です。

リブデント FB シリーズは、前方、後方、平衡の3つの咬合小面をあらかじめ設けたフルバランス設計の人工臼歯ですから、わずかな調整だけで容易に優れた機能回復が果たせます。

FB-30 は解剖的人工臼歯、 FB-20 は機能的人工臼歯です。

FB-30 の咬頭傾斜角度は 30°、FB-20 の角度は 20°、いずれも配列の際の上下顎対向関係は明確。容易に中心咬合位が確保できます。また、咬頭斜面の各咬合小面は下顎運動を十分に計算して設けられていますから、咬合器上での調整はごくわずかで済みます。

●咬頭傾斜30°の解剖的人工臼歯=FB-30



●咬頭傾斜20°の機能的人工臼歯=FB-20



●各咬合小面の対向関係が明確なフルバランス設計



大白歯への工夫で義歯の安定と配列の容易性を計っています。

第1、第2大白歯は上下顎共に天然歯と較べて頬舌径を大幅に狭くしています。これは、義歯の転覆を起きにくくするための工夫。また、特に下顎第1大白歯では、天然歯では5咬頭のところを敢えて4咬頭に。配列・バランスがきわめて容易になっています。



第1小白歯の形態・色調は前歯からの移行を考慮しています。

第1小白歯の色調は、リブデント前歯の犬歯の色調との調和が取りやすくなっています。また、形状的にも第1小白歯の頬側面の歯冠長は十分に長く、前歯からの歯頸線の移行がスムーズに形成できます。なお、小白歯舌側咬頭の近心斜面が大きくあらかじめのぞいた設計になっているのは、舌房を広くし、舌感を良くするためです。

●前歯部からの移行を考慮した形状と色調



●舌房を広くするために考えられ小白歯の舌側咬頭近心斜面

安定を得にくい症例のための0° 臼歯

リブデントフラット

ポーセレン
プラスチック

たとえば歯槽骨吸収が大きい、顎関係が悪い、あるいは咀嚼筋コントロールが不十分であるなどの条件は、義歯の安定を得る上で大変不利なものです。

従来、このような症例に有咬頭臼歯で対応しようとするれば、削合等に多大な手間を要するだけでなく、結果に必ずしも満足できないケースが少なくありませんでした。

このような症例に対応するため開発されたのがリブデントフラットです。

リブデントフラットは、その名の通り 咬頭傾斜0°の無咬頭臼歯です。

咬頭傾斜0°、即ち平坦な咬合面を持つリブデントフラットは、有咬頭人工臼歯と較べて咬合関係の設定が自由。このためFB-20やFB-30では対応が困難な症例に対しても幅広く通用でき、交叉咬合配列や舌側化咬合配列などが積極的に活用できます。しかも、無咬頭臼歯に起こりがちな咀嚼能率の低下は、独自の咬合面形状により最小限に抑えました。

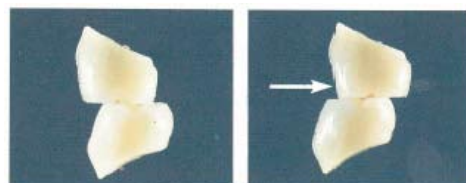
●咬合面が平坦な無咬頭臼歯。



●咀嚼効率的低下を抑える独特の咬合面形状。



●容易に構成できる交叉咬合配列。



下顎第1小白歯への工夫が 安定をさらに確実にしています。

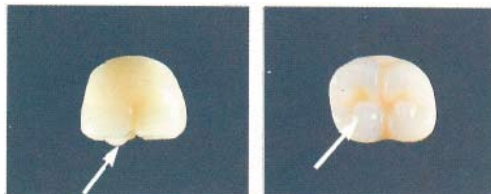
リブデントフラットの下顎第1小白歯の頬側咬合面は、舌側より約0.5mm低く形成されています。これは、偏心位での上顎犬歯との接触を避けるための処置。安定をさらに増しています。



●階段上に形成された 下顎第1小白歯咬合面

配列を容易にするオクルーザルパールを 上顎第1大白歯に設けてあります。

上顎第1大白歯の近心舌側咬合面にはオクルーザルパールと呼ぶ、真珠様の突起が設けられています。この突起を下顎第1大白歯の中心溝に嵌合するように配列すれば、下顎に対する上顎人工歯列の位置が決定。無咬頭でありながら、配列の基準は明解です。



バランスングランプの設置を考慮した リブデントフラットの近遠心径

FBシリーズでは28M/30、30M/32等を標準とする組合せが、リブデントフラットでは一、28M/32、30M/34と、下顎の近遠心径を上顎に対しさらに2mm大き目に設定してあります。これは標準的配列状態で、上下顎の第2大白歯遠心部を一致させ、義歯の平衡を得るためのバランスングランプを設置しやすくするためです。

●バランスングランプを設置したリブデントフラットによる義歯



リブデントの選択と組み合わせ

リブデントのろう板には左側にモールド、中央に材質、右側にシェードが表示されています。ポーセレン歯、プラスチック歯は、シェード、モールド共に共通。組合せる場合は下の表に従って選択してください。

■前歯のモールド表示

T-尖形 S-方形 O-卵円形 TS-方尖形

TO-尖卵円形 SO-万卵円形 VT-尖形

VTS-方尖形 SS-短方形

(TO,SO はポーセレンのみの形態)

■白歯のモールド表示

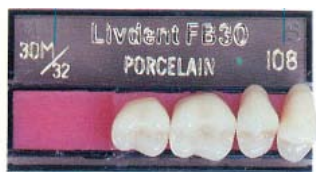
例 :30M/32(30S/32)

30- 上顎 4 白歯の全横径が 30mm である。

M- 歯冠長径が正常 (Medium) である。

[※ S- 歯冠長径が短い (Short)。FB-30 のポーセレンにあります。]

/32- 下顎 4 白歯の全横径が 32mm である。



●前白歯の標準的形態組合せ

前 歯		白 歯		
上 顎	下顎	FB-20	FB-30	フラット
T3, S3, O3, TS3	3	28M/30	28M/30	28M/32
SS3	13		※ 28S/30	
T4, S4, O4, TS4, TO4, SO4	4	30M/32	30M/32	
SS4	14		※ 30S/32	
T5, S5, O5, TS5, TO5, SO5, VT5, VTS5	5		32M/34	30M/34 (30M/32も可)
SS5	15	32M/34	※ 32S/34	
T6, S6, O6, TS6, TO6, SO6, VT6, VTS6	6			

※印はポーセレンのみの形態

●前白歯の標準的色調組合せ

前歯部シェード番号	白歯部シェード番号
102	104
104	
106	108
108	
112	112
114	114

※リブデントフラットは108のみの色調です。

リブデント FB-20 と FB-30 の組合せ

リブデント FB-20 と FB-30 は、咬頭傾斜の違いを除いて、ほぼ同一形態ですから、設計意図に応じて組合せ、削合調整して用いることができます。

●FB-20 は FB-30 と対合配列ができます。

上顎FB-30 (左=舌側化咬合) 上顎FB-20 (右=頬側化咬合)
下顎FB-20 (左=舌側化咬合) 下顎FB-30 (右=頬側化咬合)



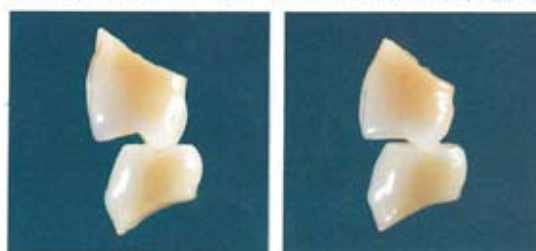
ポーセレン歯とプラスチック歯の組合わせ

リブデントシリーズでは、前歯も白歯もポーセレン歯とプラスチック歯共通のシェードとモールドを採用。従って、症例に応じ、それぞれの特長を活かした組合わせ使用が可能です。

リブデントフラットと FB シリーズとの組合せ

リブデントフラットの形態は、FB-20、FB-30 と対合するものであるため、組合せ使用が可能。例えば上顎に FB-20、下顎にフラットを使い、容易に Lingualized Occlusion(舌側化咬合) を得られます。

●FB-30(上顎)とフラット(下顎)の例 ●FB-20(上顎)とフラット(下顎)の例



※ 下顎にフラットの32を使用した場合は、上顎FB-30、FB-20の30M、30Sが適当です。

※ 下顎にフラットの34を使用した場合は、上顎FB-30、FB-20の32M、32Sが適当です。